

# 第三十六回 中河内拓本展を終えて

田中 絹子

中河内拓本クラブは左記の通り展示会を開催しました。

【場所】 東大阪市民美術センター第三展示室

【日時】 令和三年九月二十三日～二十六日

午前十時～午後五時

【作品】 五十二点余

## 一 大阪市立桃山病院跡『殉職者慰霊碑』

(大阪市天王寺区筆ヶ崎町)

碑の大きさ二面 縦 70×横 110cm  
(旧仮名遣いのまま原文通りに掲載)

### 【碑文】

今茲昭和十二年五月七日本院創立五十周年記

念式ヲ擧クルニ當リ本院殉職者慰霊祭ヲ行ヒ

以テ其ノ功勞ヲ追頌シ謹ミテ冥福ヲ祈レリ惟

フニ職ヲ傳染病院ニ奉スル者ハ常ニ勇猛果敢

怖ルヘキ悪疫癘鬼ト戦フ恰モ軍人ノ職場ニ在

ルカ如ク危険身ニ迫リテ生死測ルヘカラス特

ニ本院ハ大都市ノ避病院トシテ疫病患者塵至

シテ止マス其ノ過去ヲ回顧スレハ勤務者亦實

ニ悪戦苦闘ニ終始シテ寧日ナク就中明治三十

五年及ヒ大正五年ニコレラ大ニ流行シ明治四

十年ニペスト酷タ猖獗ヲ極メ明治四十一年及

ヒ大正六年ニ痘瘡荐リニ暴威ヲ逞ウセルニ際

シ全員挺身専ラカヲ防疫療病ニ竭シ最モ凄惨

ヲ極ム此ノ如クニシテ職員以下不幸ニシテ病

毒ニ感染セル者三百六十有餘名ヲ算シ遂ニ院

長一醫長一醫員四看護婦二十三使丁雑役六計

三十五人ノ尊キ殉職者ヲ出スニ至レリ悲痛曷

ソ勝ヘン然リト雖モ此等ノ各位ハ一ニ仁慈ヲ

旨トシテ身ノ安危ヲ顧ミス赤誠能ク任ニ盡シ

犠牲ト為レルモノニシテ其ノ義勇丹心ハ盡忠

殉國ノ軍人ニ異ナラス崇高ナル精神ハ後世ノ

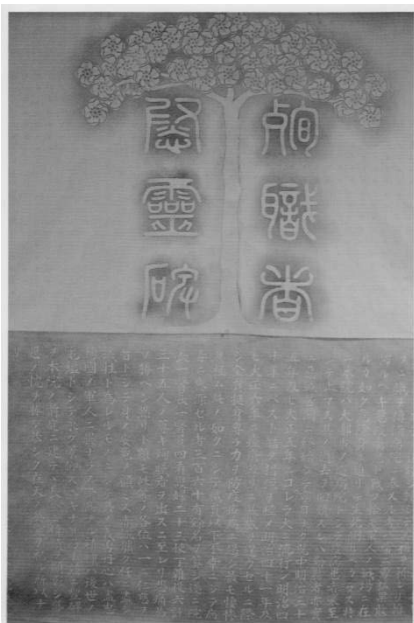
龜艦トシテ永ク景仰スヘキナリ乃チ茲ニ豐碑

ヲ本院ノ前庭ニ建テ、長ヘニ偉績ヲ顕彰シ感

恩ノ忱ヲ捧ケ恭シク在天ノ英靈ヲ祀ル所以ナ

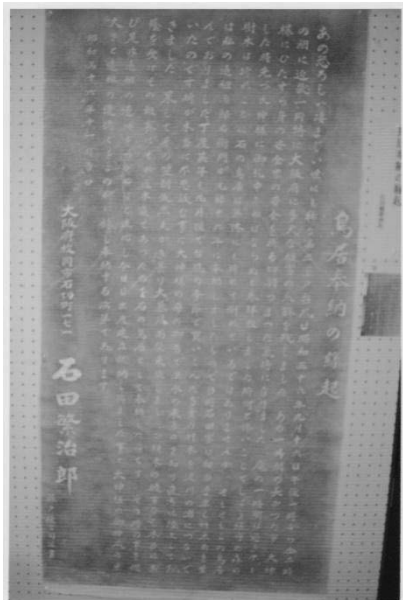
リ

大阪市立桃山病院院長 熊谷謙三郎 誌



【図版2】『鳥居奉納の縁起』  
石切劔箭神社境内 135×70cm

あの恐ろしい凄まじい世にも稀な第二室戸台風は昭和三十六年九月十六日午後一時から全二時の間に近畿一円特に大阪府に多大な被害の爪跡を残しました。  
あの一時間の長かった事、大神様にひたすら身の安全を祈る切羽つまった気持ちになりました。魔の一時間は過ぎホットした時先ず氏神様に御礼申さねばならぬと参拝いたしました所何と惨いことでしょう鎮守の森の樹木は折れ ことに石の鳥居は無惨に折れて倒れているではありませんか。



そもそもこの鳥居は私の遠祖次郎右衛門が元禄十六年に奉納しましたもので当時石田家は相当手広く材木商を営んでおりました。丁度其年も九月頃で台風季節で買いこんだ多量の材木を淀川の渚につないでいたのです。所が本当に不思議な事に大神様の夢の御告で洪水の来るのを知り直ちに陸上しておきました。果たしてその翌朝俄然天かき曇り大暴風雨襲来致しました材木の被害なく本当にお蔭を受けてその報賽にそれ迄木材であったのを石の鳥居として奉納したのです。  
その時の事を偲び是非遠祖の遺功をつがねばと決心し今日目出度建立献納し得ました事を大神様の御神威の宏大さと遠祖の遺徳とをこの碑に録し奉納する次第であります。

昭和三十六年十一月吉日  
大阪府枚岡市石切町一七一

石田繫次郎 藤戸権宮司謹書

【図版3】 石切劔箭神社境内 170×98cm  
神明如日升 身體如鼎鎮  
安岡正篤



【図版4】 東大阪市善根寺町 70×102cm  
雲白く 山は霞みて 故郷の  
花の小径を 迎る樂しき 正篤



【図版5】 東大阪市善根寺町  
安岡正篤先生旧宅

師恩無窮 安岡正篤先生勉學の處  
孔子木 中国曲阜聖廟の楷樹嫡孫



【図版6】 東大阪市善根寺町  
『安岡正篤先生頌徳歌碑建設の由来』

この碑の歌は安岡正篤先生が昭和四十九年四月二十九日母校孔舎衛小学校の創立百周年記念式典に出席の為帰られた折に詠まれたものであります。先生は明治四十三年三月孔舎衛小学校を卒業せられ引続き四条畷中学校（現四條畷高校）に進まれ大正五年三月同高を卒業され同年四月第一高等学校へ入学されるまでの幼年時代をこの地で過ごされました。先生の旧宅は碑の北側に保存されている建物がそれでありました。

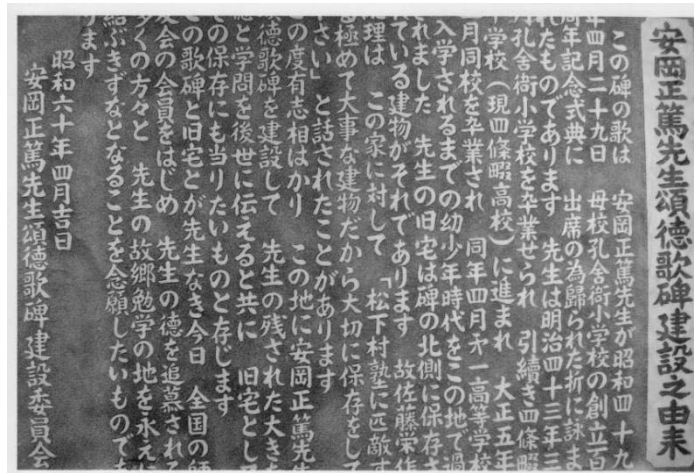
故佐藤栄作総理はこの家に対して「松下村塾に匹敵する極めて大事な建物だから大切に保存をして下さい」と話されたことがあります。

この度有志相はかりこの地に安岡正篤先生頌徳歌碑建

設して先生の残された大きな徳と学問を後世に伝えると共に旧宅としてその保存にも当たりたいものと存じます。この歌碑と自宅とが先生なき今日全国の師友会の会員をはじめ先生の徳を追慕される多くの方々と先生の故郷勉学の地を永えに結ぶきずなとなることを念願したいものであります。

昭和六十年四月吉日

安岡正篤先生頌徳歌碑建設委員会



【図版7】 箕面市 62×70cm

雲林幽寝 樵徑鳥語 精舍清曠 松籟溪韻  
正篤

乙未四月十日



本年は五十二点余りを展示しました。今年にはコロナ禍のため教室での作業そして会員同士の楽しい時間を持つ場もありませんでした。これまでの贅沢な経緯を思い当然の事のように大学の教室を使用させて頂きました事を厚く御礼申し上げます。中河内拓本クラブは昭和六十二年に発足以来、平成、令和と毎年展示会を継続して参りました。多くの諸先輩方のご指導、情報等を頂きました。深く感謝致しております。

（中河内拓本クラブ）